

デッドロック機能

デッドロックボタンが付いているキーレックスの機能です。解錠をキー操作だけに切り替えられます。記憶ボタンによる解錠機能をロック【使用不可能】にすることで、解錠できる人員を限定でき、出入りを制限したい場所などに有効です。



① デッドロックボタンを押しながら

② 切替ツマミを Dead 側に回します

デッドロックから自動施錠へは
切替ツマミを
Dead → Auto Lock へ回します
(デッドロックボタンは押さない)

レバーハンドルの位置が正常でない時

レバーハンドルに『こじ開け防止・安全装置機能』がついています。記憶ボタン操作をせず強引にレバーハンドル操作をすると内部機構保護のため安全装置が作動し、レバーハンドルが空転して、上(下)位置でとまります。故障ではありません。

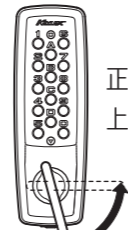


レバーハンドルの
正常な位置

レバーハンドルの位置が
右図になった時は
正常な位置に戻します



正常な位置まで
下げ戻す



正常な位置まで
上げ戻す

本図は KL2100 右吊元仕様 (左吊元は対称)

記憶番号設定に関するご注意

- キーレックス 2100, キーレックス 1100 は 1 ~ 14 桁まで任意の記憶番号を設定できます。
- ボタンを押す順番は設定できません。
例) 記憶番号 1・2・3 の場合
1・2・3 と押しても 2・3・1 3・1・2 1・3・2 と押しても解錠できます。
- 1 つのボタンにつき設定は 1 回だけです。(同じボタンを 2 度押す設定はできません)
例) 1・1・2・3 や 1・2・2・3 の設定はできません。



注意 危険防止の為に以下をお読みください

- 取付時の注意
 - 各部取付ねじの締め付け時は、必ず手動ドライバーをご使用ください。電動ドライバーは使用しないでください。
- 取付ねじのゆるみ
 - 各部取付ねじのゆるみは、防犯及び落下防止の為に定期的に増し締めしてください。
- 受座の飛び出し
 - 受座の飛び出しが大きい場合、体を傷つけたり、衣服を引っ掛けるおそれがありますので、取付業者に依頼して適正な受座に取り替えてください。
- 他の用途への使用
 - ノブ(レバー) にぶらさがったり、足場にしたり、物を掛けたりしないでください。危険です。
- ◆ 操作上の注意
(故障の原因となります)
 - 製品の分解、改造はしないでください。
 - デッドボルトを突出させた状態で扉を閉めないでください。
 - ボタンを押しながら、ノブ(レバー) の操作をしないでください。
- ◆ 永くご使用頂くために
 - 錠ケースへの潤滑材使用はさけてください。
 - 表面の手入れは柔らかな布でから拭きしてください。特にボタンまわりは、定期的から拭きし、汚れがひどい場合は、中性洗剤を使用してください。

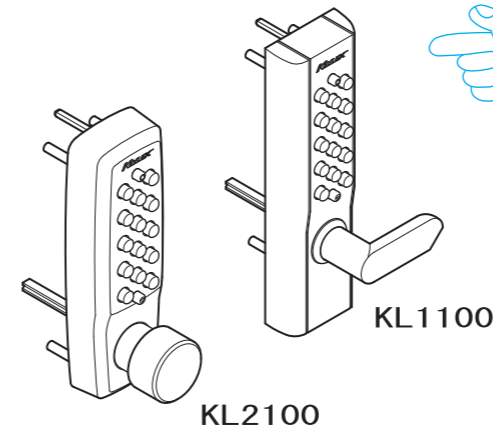


KEYLEX[®] 2100 1100

キーレックス 2100
キーレックス 1100
自動施錠

取扱説明書 (施主様向)

このたびは、当社製品のお買い上げ、ありがとうございます。本取扱説明書は、施主様、又はご入居者にお渡しください。この説明書は必ずお読みの上、保管してください。



※ 各機種ともノブタイプ、レバーハンドルタイプがあります

防犯上、記憶番号の変更を定期的におこなうことと、施錠時に記憶番号以外のボタンを空押しすることをおすすめ致します。

〈記憶番号の記録〉

年 月 日
年 月 日
年 月 日
年 月 日
年 月 日

ただ今の記憶番号

NAGA
SAWA

www.nagasawa-mfg.co.jp

株式会社 長沢製作所

東京支店 TEL. 03-5383-1811 (代) 大阪支店 TEL. 06-6783-5091 (代)
FAX. 03-5967-3103 FAX. 06-6783-5092

取り付けられている建具などに異常がありましたら専門の業者にご相談ください。

基本操作

ご使用前に確認してください。

- 登録している記憶番号
- 錠のデッドラッチが突き出ていない
(突き出ている場合は、ノブ(レバー)を操作して、デッドラッチを正常位置に戻す)

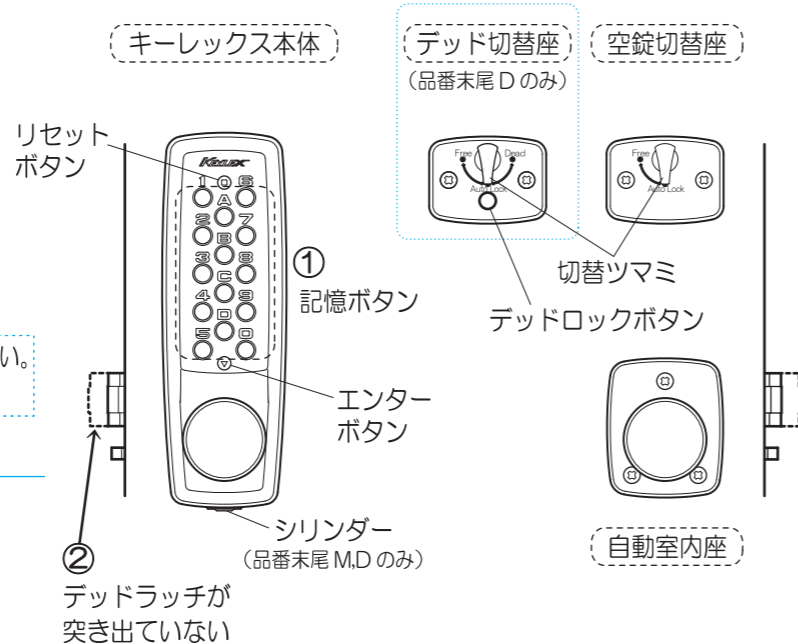
※ レバー仕様の場合はレバーが真横にある。
(真横にない場合は、4ページの
レバーハンドルの位置が正常でない時を参照)

△レバー(ノブ)は止まる位置まで操作してから扉をあけて下さい。
操作が不十分な場合、施錠状態に戻らない恐れがあります。

鍵付タイプ(品番末尾M,D)の場合

記憶ボタン操作の代わりにキー操作でも開扉できます。

- キーをシリンダーに入れ回す
(デッドラッチのみが引き込まれる)
- キーを回したまま(戻さずに)、
ノブ(レバー)を引いて(外開き時)開扉する



室内側

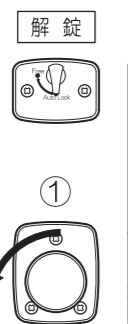
室外側

施錠

- 扉を閉めると、自動で施錠されます(Auto Lock時)

解錠

- ノブ(レバー)操作で、解錠できます



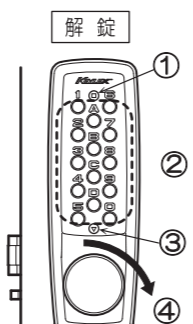
※ 本図は右吊元仕様(左吊元時は対称)

施錠

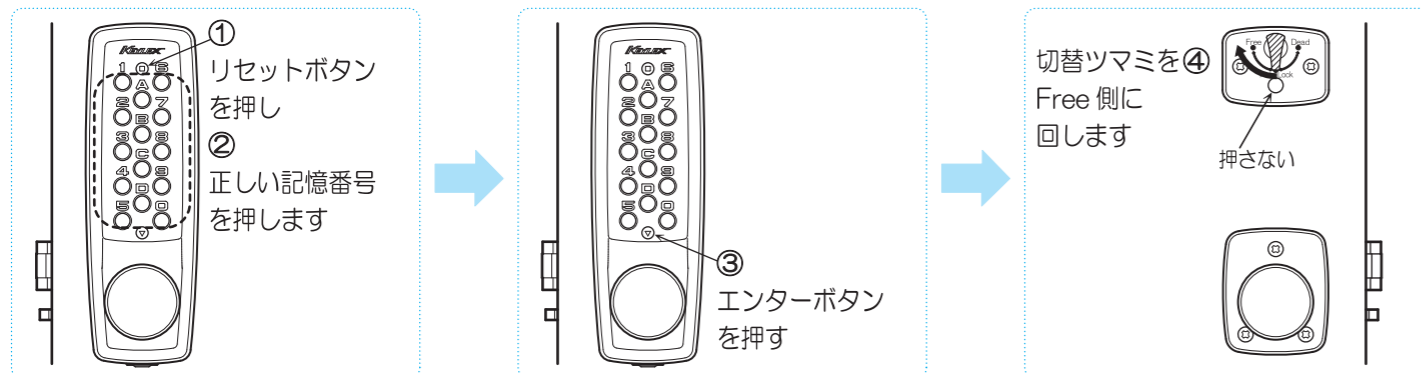
- 扉を閉めると、自動で施錠されます(Auto Lock時)

解錠

- リセットボタンを押します: 誤操作の記憶番号が解除されます
- 正しい記憶番号を押し、③ エンターボタンを押します
- ノブ(レバー)操作で、解錠できます



切替ツマミで、自動施錠から、扉を閉めても鍵がかからない状態(空錠)にすることができます(Auto LockからFree)扉を開けた状態で操作します

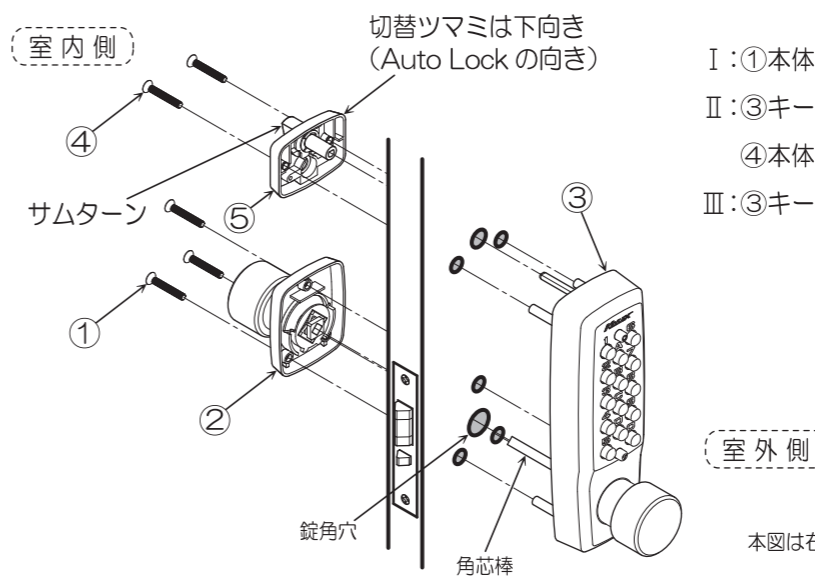


空錠から自動施錠へは、切替ツマミをFree → Auto Lockへ回します(デッドロックボタンは押さない)

記憶番号の変更手順 扉は開けたままの状態でおこないます

【1】キーレックス本体を取り外します

取り外した部材は全て使います。紛失しないようご注意ください

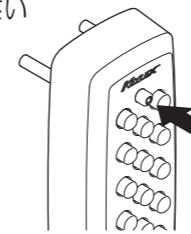


- ① 本体固定ねじ3本をはずし、② 自動室内座を取りはずします
- ③ キーレックス本体の落下に注意しながら
④ 本体固定ねじ2本をはずします
- ③ キーレックス本体と⑤ 切替座を取りはずします

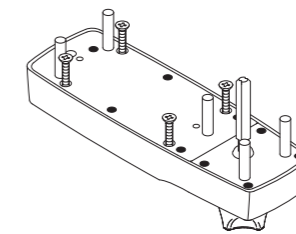
本図は右吊元仕様(左吊元は対称)

【2】記憶番号の設定変更をします

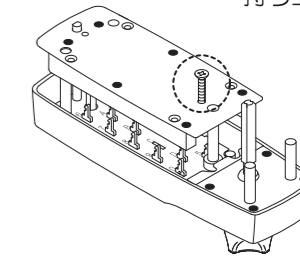
- 本体表側のリセットボタンを押す
⑧まで記憶ボタンは押さないでください



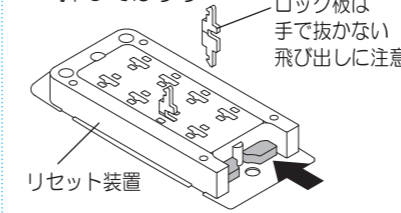
- 本体裏のねじ4本をはずす
(赤色ねじははずさない)



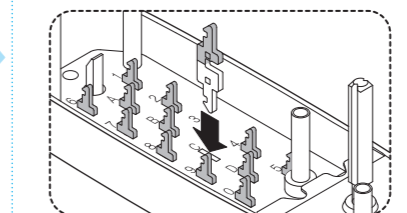
- ねじを下図の位置に入れ
持ち上げる



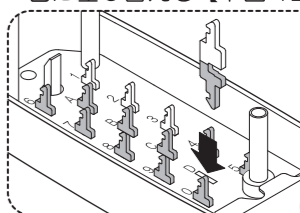
- リセット装置にロック板が残った場合 灰色部を矢印方向に押しはせず
ロック板は手で抜かない
飛び出しに注意



- 今までの記憶番号を消す: 白色のロック板を赤色に差し替える



- 新規記憶番号をセット: 新しく記憶させる番号のロック板を白色に差し替える【下図123D】



- 新しい記憶番号を必ず記録します。本紙1ページに記入欄があります
- リセットボタン + 新しい記憶番号 + エンターボタンを押し、ノブ(レバー)が解錠方向に回ることを確認します。

基本操作 室外側欄を参照します

【3】本体を取り付けます

【1】と逆の順番で取り付けます
角芯棒、切替ツマミの向きに注意して取り付けます(上図参照)

取り付けたら、扉を閉めずに2ページの**基本操作**で作動確認をします